

「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園」 にぎわいづくりと活用について

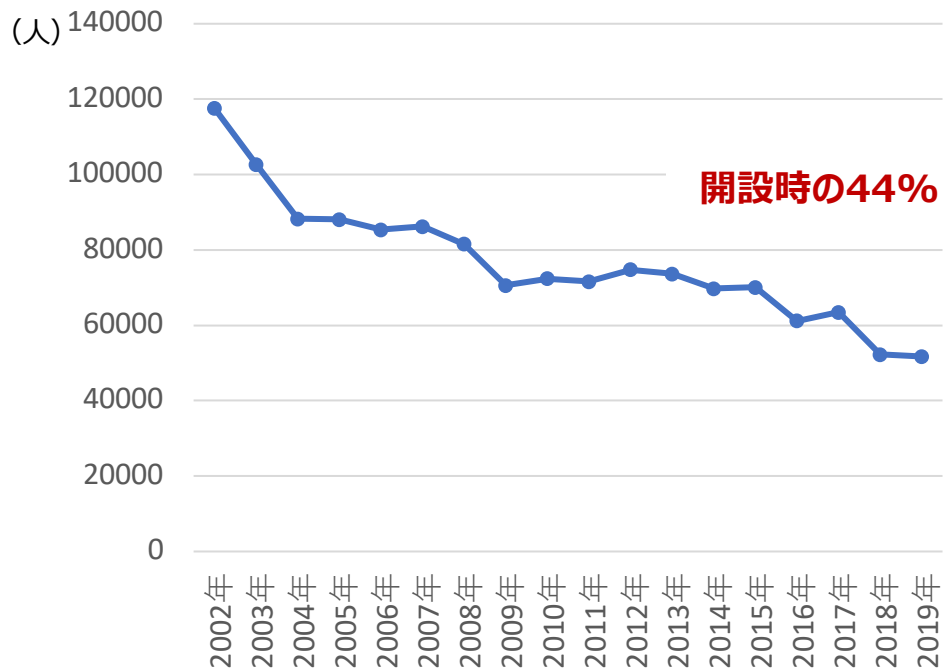
一宮北部まちづくり委員会
(一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園再構築検討委員会)



一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園エリアの現状（1）

- 一宮温泉まほろばの湯（平成14年開設）及び、家原遺跡公園を要する公園エリアは、長く一宮北部地域住民、穴栗市市民等に親しまれてきました。
- しかしながら、一宮温泉まほろばの湯は開設以降入場者数が減り続け、2019年度の入場者数は開設時の44%にまで落ち込みました。さらに2020年には新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い更に客数が減少し、運営事業者が撤退、まほろばの湯は休業状態となりました。

<入場者数>



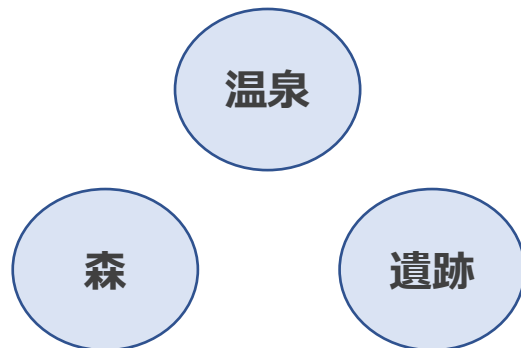
<温泉収支>



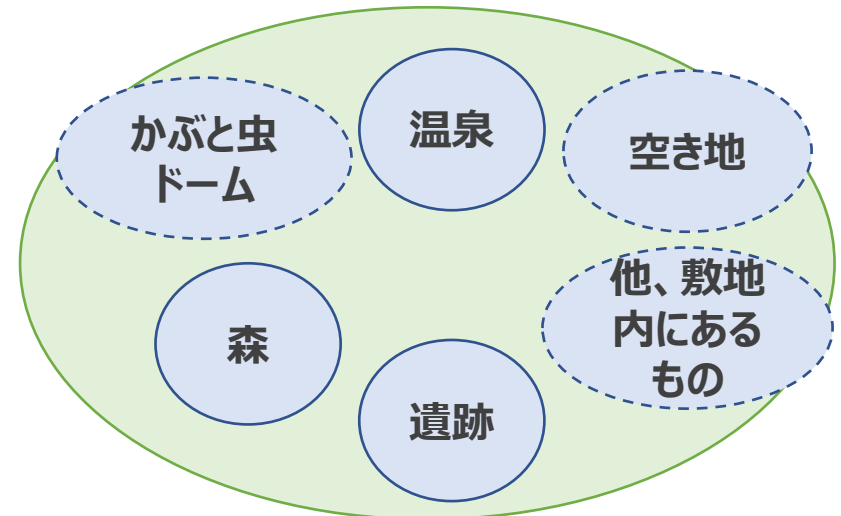
一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園エリアの現状（２）

- 家原遺跡公園は「市民の健全な余暇利用」と、「郷土の歴史と地域文化及び社会教育の向上を図る」ことを目的に、また家原教育の森公園は「森林等自然を利用した体験や森林教育を通じた地域の活性化」を目的に整備されています。
- 一方で、各エリアが十分に活用されているとはいいがたく、活用がない上に維持管理コストがかかるという状態になっています。
- 一宮北部地域まちづくり委員会においても、「地域の活力を再生」「皆が集まれる場所」「稼げる仕組み」の必要性について提案がなされており、市として公園全体を一体的に活用できるよう、条例を改正しました。

それぞれの運営から ..



一体的に捉えることで
公園全体の魅力向上・拠点化へ



一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園エリアの課題

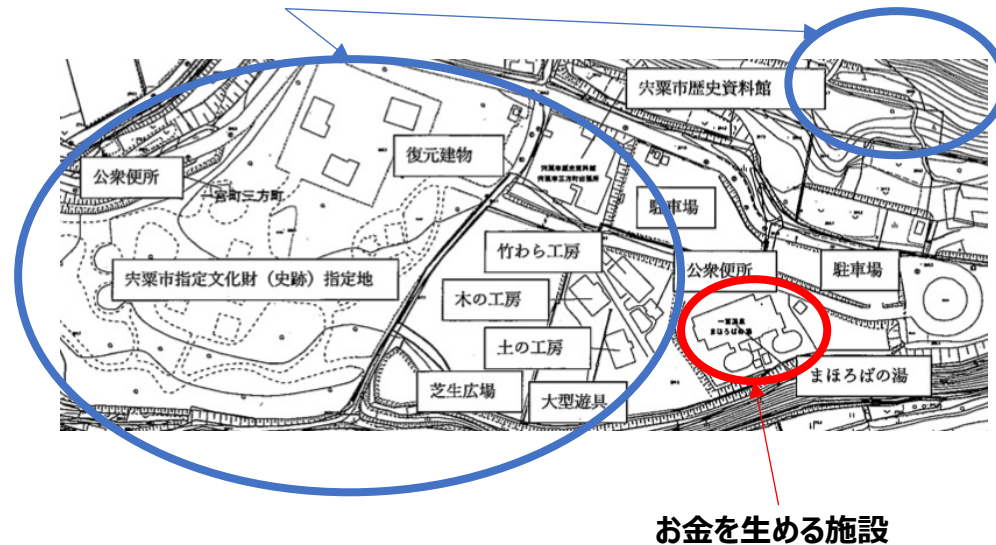
- 民間企業が行った調査によれば、兵庫県及び周辺の県（大阪府、岡山県、広島県、鳥取県）に住む人のうち、まほろばの湯の体験率は3.4%未滿。家原遺跡公園はこれよりもさらに低くなっています。
このエリア一帯を地域住民にとっても来訪者にとっても「集まりたくなる、行きたくなる場所」にするためには、現在ある資源や社会トレンドをもって、何が出来る場所なのかPRの方向性を決め、それに耐えうる内容を充実させて行くことが必要です。
- また、管理運営範囲を「まほろばの湯」のみから「家原遺跡公園、家原教育の森」まで一体としたことで、「お金を生む目的ではない」エリアの運営が必要となりました。今後継続的で魅力的な場所であり続けるために、**市として運用の自由度を上げるための措置や追加の整備を実施すると共に、地域住民が協力して場を盛り上げる仕組みも必要になってきます。**

<経験度ランキング（2015年調査結果）> n=1,036

	施設等名称	回答人数
1位	道の駅とドライブイン	76
2位	手延素麺 揖保乃糸	60
3位	氷ノ山	54
4位	揖保川、千種川	52
5位	原不動滝	47
6位	赤西・音水・福地溪谷	42
7位	ちくさ高原・ばんしゅう戸倉	41
8位	播州山崎花菖蒲園	36
9位	大歳神社	36
9位	最上山公園もみじ山	36
11位	一宮温泉「まほろばの湯」	-

<お金を生めるエリアは、現状温泉のみ>

現状ではお金を生まないが管理が必要な施設





再構築検討委員会での検討

- 一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園再構築検討委員会では、2020年度から継続して全9回の検討を行いました。
- 委員会では、どうしたら当該エリアを魅力的な場所にできるか、という観点からこの中で、当該エリアにおける魅力的なモノ・コト・ヒトを挙げ、更に魅力的な場所になり得る社会の追い風、利用者ニーズ等を鑑みて議論をしました。
- 結果、**当該エリアやエリアを取り囲む地域には様々な魅力があり、地域住民にとっても来訪者にとっても魅力的な場所になり得るとの結論を得ました。また、当該エリアは地域外からの来訪者を主軸にした「観光施設」というだけではなく、地域住民にとっても集いの場、憩いの場となるような「活動拠点」であるべきだと考えました。**

魅力的なモノ・コト・ヒト

<モノ> 地元の食 (甘酒、豆腐、緑米もち、天然水 (千年水・文殊の水)、桑茶、穴粟牛、鮎、天日干しのお米、山菜、香茸・松茸、繁盛米、ジビエ料理)、**自然環境** (野生動物、かぶと虫、福地溪谷、揖保川)、**歴史・文化** (御方神社)

<コト> 自然体験 (川遊び、山菜採り、かぶと虫採取、鮎釣り、星空観察、水生生物観察)、**歴史・文化体験** (餅投げ、とんど、ひなあらし、盆踊り、獅子舞、子ども相撲、炭焼き、農村歌舞伎、青年団演劇、風土記、縄文時代から続く)、**スポーツ** (山登り、サイクリング)

<ヒト> ○○作り名人 (ひょうたん、竹細工、紙細工、藁細工)、**農家さん、猟師、手作り雑貨、イラストレーター、画家、アロマセラピスト、お茶ブレNDER、養蜂、天気や自然に精通した人、協力気質**・ など

- ✓ **ブランディングできそうな食、文化、一緒に盛り上げてくださいそうな人。なんでも揃っている。これらが組み合わせれば、地域の人も来訪者も楽しめる場所になることができる。**

当該エリアをさらに魅力的にできる社会の追い風

- ✓ アウトドアブーム (密を避ける、健康志向)、自転車・ロードバイク
- ✓ 地域のもの、ローカルなものを大事にするトレンド
- ✓ 自然体験ができる場所の減少
- ✓ コト消費の流れ
- ✓ SDGs、環境・共生
- ✓ 移動制限等により遠くまで遊びに行けない (手近で密ではなく遊べる場所が人気) ※今後中長期で同様の流れ

- ✓ **資源をさらに魅力的にできる追い風がある。**

一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園エリアが目指す方向性

一宮地域の地域住民の**コミュニティ拠点**であり、来訪者にとっての**観光拠点**となる。

<地域住民にとって>

そこに行けば誰がいる、何かある、何かできる
<集いたくなる場所>



- 青空市
- 温泉
- ウォーキングコース
- 体操教室
- グランドゴルフ
- おしゃべりできるカフェ
- 水遊び、虫取り、観察会
- 食事処、お弁当
- お花見
- 児童制作の展示会
- イベントを開ける
- 移住相談・課題解決の場



<来訪者にとって>

あれをしに行こう、食べに行こう
<1日滞在できる体験と憩いの場>

たとえば・・・

- 地元食材の美味しい食事処
- 温泉
- カフェ
- BBQ
- 農業体験・採れたて野菜の食事やピザ窯体験
- ハーブ園・お花
- 案内所・まち人との交流
- 体験工房
- キャンプ
- ボールで遊べる
- サイクリング
- 遺跡体験宿泊





(参考) 域外からの来訪者イメージ

- 既存データを見ると、穴栗市には主に兵庫県内からの来訪者が多くっており、最も多いのは姫路市からの来訪で他神戸市からも一部来訪が見られます。
- また、穴栗市では今後森林セラピー事業など、当該エリア周辺の資源を活用した面的な資源開発や、県外からの誘客の取り組みなども進められており、一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園等一体のエリアでは、こうした域外からの来訪者が求める機能もそなえていくことも必要だと考えます。

<穴栗市以外からの来訪者属性（例：2019年5月休日14時）>

	来訪者の居住地	滞在人数
1	兵庫県姫路市	1,756
2	兵庫県たつの市	669
3	兵庫県加古川市	292
4	兵庫県佐用町	256
5	兵庫県西宮市	246
6	兵庫県太子町	223
7	兵庫県明石市	212
8	兵庫県神戸市西区	194
9	兵庫県神戸市垂水区	192

<想定する県外からの来訪者>

- ✓ 森林セラピー事業への参加者
(ターゲット：大阪等都市部企業の30-40代、
活用想定：市内の溪谷、サイクリング等)
- ✓ 溪谷散策、キャンプ等での来訪
- ✓ バイクツーリングでの来訪
- 想定ニーズ
 - ・ 仕事、都市圏からの開放、デトックス、リラックス
 - ・ 地域ならではの文化、食事、人 等



コミュニティ拠点であり観光拠点である、公園のイメージ

- 当該エリアはとても広く、また様々な性格の施設や空間が集まっています。再構築検討委員会では、主に「ファミリー」「カップル」「シニア」といった来訪者を想定し、当該エリアでの具体的な楽しみ方を考えました。以下は話し合われた内容の一例です。

	温泉	工房・温泉横の畑	家原遺跡公園	かぶと虫ドーム、教育の森
地域住民	<p><全年齢></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 周辺施設 + 足湯 <p><シニア></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 温泉と食事、健康体験 ✓ お弁当販売 ✓ マッサージ <p><カップル等・ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ビアガーデン ✓ いつでも寄れる美味しい食事処 	<p><全年齢></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 喫茶スペース、青空市 <p><シニア> 趣味の教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ イベントコンサート、作品展示 <p><ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 体験活動（竹細工や木工など）、児童制作展示 <p><カップル> フリマ、WS</p>	<p><全年齢> お花見</p> <p><シニア></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ グランドゴルフ大会 ✓ 日中の自然散策 ✓ ウォーキングコース、体操教室 <p><ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 虫取り、キャンプ、ウォークラリー、観察会、水遊び <p><カップル></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ まったりスペース 	<p><ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ かぶと虫ドームと遊具遊び、温泉に入ってキャンプ
来訪者	<p><全年齢></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 温泉と美味しいレストラン（地元食材を活用した） ✓ サイクリスト、バイカーの立ち寄り温泉 ✓ 特産品購入、野菜・加工品を購入できる ✓ 団体で家族風呂使用 <p><ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 採れたて野菜の食事・購入 	<p><全年齢></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 体験型施設（手仕事体験 + 喫茶など） ✓ 農業体験案内 <p><ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 農業体験 + 採れたて野菜でピザ焼体験 ✓ 竹細工・竹とんぼ大会 ✓ 昔ながらの遊び体験（駄菓子、スイカ、ラムネ） 	<p><シニア></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ グランドゴルフ大会 ✓ 自然散策 <p><ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ キャンプ、バーベキュー ✓ 遺跡宿泊体験 <p><カップル等></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自然散策 ✓ アウトドアランチ + 読書 	<p><全年齢> ドッグラン</p> <p><シニア></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ハーブ園、山野草 <p><ファミリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ キャンプ・ソロキャンプ ✓ てがらキャンプ（地元食材提供） ✓ かぶと虫ドームと遊具遊び、温泉に入ってキャンプ ✓ レンタルサイクル。自然体験



一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園エリアが目指す方向性に向けた望ましい整備

- ここまで検討した来訪想定者ごとの具体的な楽しみ方や、公園の性格を鑑みて、委員会では以下のような内容が今後整備されていくのが望ましいと考えました。

一宮地域の地域住民の**コミュニティ拠点**であり、来訪者にとっての**観光拠点**となる。

<地域住民にとって>

そこに行けば誰がいる、何かある、何かできる
<集いたくなる場所>

<来訪者にとって>

あれをしに行こう、食べに行こう
<1日滞在できる遊びと憩いの場>

ハード面の整備（案）

- ✓ 工房や中世の建物の内部を飲食可能にする
- ✓ 温泉外への足湯の設置
- ✓ 温泉横の畑の整備と、鹿避けの設置
- ✓ 温泉の庭をBBQ場にする

- ✓ かぶと虫ドームの横をキャンプ場に整備
- ✓ 温泉横にピザ窯等、野菜収穫後の調理用機材の設置
- ✓ 村の暮らしの案内所・交流所の設置
- ✓ おしゃべりができる場所を増やす（椅子等の設置）
など

ソフト面の整備（案）

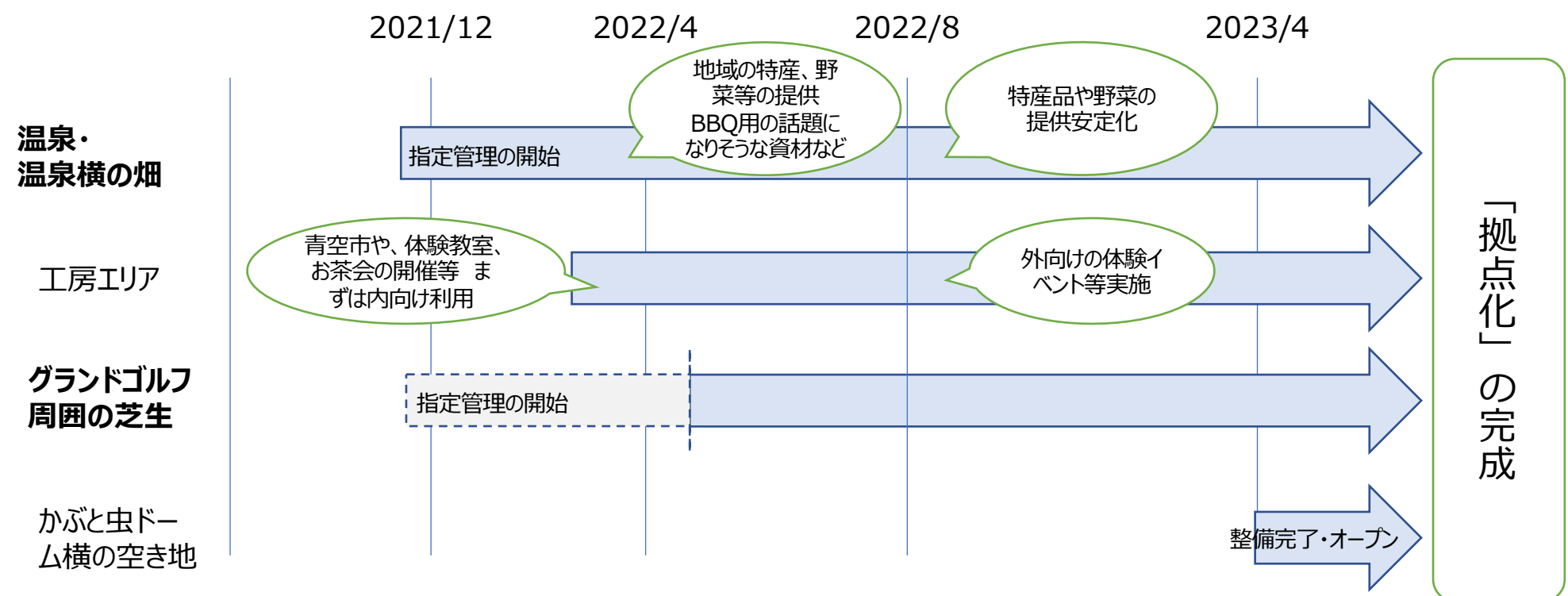
- ✓ 各協会・団体と連携、当該エリアでの提供メニューを増やす（工房のテナント化、体験メニューを増やす（竹細工、アロマ等）、青空市の実施等）
- ✓ 当該エリアを活用場所に選ぶ団体を増やす
- ✓ グラウンドゴルフ場周辺のデイキャンプ利用化

- ✓ ボランティアの募集（公園整備）
- ✓ 特産品や野菜の提供をできるグループの編成（応援隊の結成）
- ✓ 当該エリア・施設でチャレンジショップ等新たなビジネスをできる環境を整える
など



拠点化に向けた進め方のイメージ

- 2021年12月には指定管理者が決まり運用が始まることを考えると、地域住民にとっても来訪者にとっても“拠点化”となるには十分な時間ありません。また、当該エリアに含まれる各場所の運用開始時期も異なります。
- そのため、以下の通り、徐々に運用する場所を増やしていくことで、地域住民の拠点化も少しずつ進めることとし、再構築検討委員会として“目指したい姿”は、2023年に完成することを想定しています。



○ : 緑の吹き出し .. 地域住民の参加イメージ

指定管理者と地域が一体となった施設管理の体制

- 一宮温泉まほろばの湯及び家原遺跡公園の場を継続的に盛り上げていくために、当委員会では指定管理者に全てを委ねるのではなく、地域住民自身も運営に参画し、この場で「できること」を実践していくことが理想です。そのために、有志の地域住民により、「（仮）応援隊」を組織し、施設の運営に参加していくことが望ましいと考えました。
- また、指定管理者と（仮）応援隊が一体となってこの場を盛り上げる活動を行なっていくにあたり、全体を取りまとめ・意向調整等を行う「コーディネーター」の役割を果たす人員を配置することが望ましいと考えました。



コーディネーターを介し、指定管理者と地域住民が一体となって施設・公園全体を魅力的な場所へ

「（仮）応援隊」の活動イメージ

- 委員会では、具体的に（仮）応援隊がどのようなことで場を盛り上げていけるかについても検討しました。
- 様々な地域住民にとって、この場所が、無理なくかつ自身の生きがいや新しい挑戦の実践の場となることが望ましいと考えます。

<参加の方法の例>

【使う／協力する】

温泉運営者等と連携のもと
施設運営への一部協力
施設の活用 など



飲食施設への食材等の提供



市民農園運営への協力



市民サークル等の活動実施

【伝える／企てる】

地域・施設の魅力づくり
および、それら発信 など



地域・施設情報の発信
(メディア運営)



PRイベントの実施



市民ガーデン・緑地づくり

【運営する】

市民が集う機会、事業の場
の企画、継続運営 など



マルシェ開催



期間限定チャレンジショップ実施



ワークショップ開催

地域住民一人ひとりに適した関わり方で、自己実現（やりがい、スモールビジネス）ができる場所

コミュニティ拠点であり、観光拠点となった公園

・ 域内外の人が集い、関係性が生まれる。交流人口から関係人口となる拠点へ。

